

件名	復命書：令和2年度 第2回丸森町復興推進委員会		
期間	自令和 2年 10月 27日	場 所	丸森まちづくりセンター 2階 大集会室
	至令和 年 月 日		
内 容			

1.出席委員 別紙「出欠確認表」のとおり

2.開会（司会：復興推進室 日下補佐）

3.議題（議事進行：委員長）

（1）丸森町復旧・復興計画実施計画書について《説明：復興推進室長》

- ・資料1-1及び1-2を基に説明

【質疑応答】

佐藤（勝）委員長：資料に示されている事業費の妥当性について、細かく資料が作られているのでこれを解析していく必要がある。今の説明の中で、ご不明な点などあれば質問をしていただき、具体的に理解できる内容にしていきたいと思うので、皆さんからのご意見を頂きたい。

柴山副委員長：資料1-1の13ページ成果指標について、地域包括ケア病床利用率の目標値が、100%ではなく70%になっている。こども園定員充足率も100%ではなく現実的な目標値として90%となっていると思う。14ページについても、カウンセリングが必要な児童生徒数について、目標値が10人というのは、今後カウンセリングを受けなくても良いようにしていくことからするとちょっと甘いかと思う。ゼロにしていく方向にするべきではないか。その下の精神的不安傾向にある被災者割合の目標値も、5.0%ではなく0%に向かっていくべきなのでは。また次の15ページ学校防災訓練の実施回数が、基準値は2回/年で、目標回数は3回/年となっている。多分、現在は地震訓練と火災訓練で2回/年、風水害訓練を入れて3回/年と書かれているが、回数よりも中身（内容）が重要なので他の指標で出した方がいいのではないかと。次は22ページ、安心、安全メール登録件数が5,000件という目標数値があるが、今丸森町の人口が約15,000人の3分の1とすると少ないと思う。このように全体的に言えることだが目標値は、どのような基準で出したのかということを示さないと、この目標値が本当に妥当なのか分からない。ただ目標値をクリアするだけではなく、妥当性や数値の意味合いが大切。数値に対して補足をしていく必要がある。

大内復興対策監：ご意見ありがとうございました。個々の指標は、主として町の総合計画において設定している指標の中から復旧・復興に関わるものを選択した。今ご指摘いただいた福祉、防災関係についての指標をもう少し分かり易く補足をしていきたいと思う。

渡邊委員：26ページに町管理道路復旧路線について、令和6年までスケジュールが伸びているが、その下の予算額を見ると令和4年以降は0円になっている。予算がないのに令和6年までスケジュールが書いてあるのはどのように理解すればいいのか。

※次ページに続く

八巻建設課長：この表に掲載している事業費を繰り越すなどをしながら、5年間で実施していくことになる。

渡邊委員：令和3年までの事業費全体で令和6年までに繰り越すものも含めて、この金額で実施すると理解していいのか。

八巻建設課長：現在の計画ではこの事業費で進めていく予定である。

佐藤（隆）委員：計画書で令和1年、2年、3年とあるが、その年度毎の実績報告をどのように実施していくのか。

引地室長：毎年このような形で実施計画書を作る予定であり、来年度も今ぐらいの時期にこのような委員会を開催して同じように皆様からご意見を頂くことになる。その際に来年度は、まず令和2年度の実績、成果指標に対する進捗などを示しながら、さらに令和3年度以降の事業費の規模などを報告していきたい。

（2）復旧・復興事業の進捗について《説明：復興推進室長》

・資料2を基に説明

【質疑応答】

柴山副委員長：とてもまとまって分かり易くなっていると思う。2ページの工事個所数については、年度毎に本来ここまで行く予定であったという記載が欲しいと思った。令和6年度までに着工数がこれ位で、完了がこれ位とか、見える化をもう少ししていただきたい。今回コロナ禍ということもあり、全体的に工事は遅れていると思うが、それも加味しながら、どれぐらい遅れているのかということも住民に分かり易く示していただければありがたい。

引地室長：今のご意見を踏まえて、今後どのような形で住民の皆様にお示しできるかを検討していきたい。

佐久間委員：丸森町から他の市町村に転出された方が9月末現在何世帯位いるのか。復旧・復興に向けて、丸森町に残っていただくということが一番大切なのではと思っている。

引地室長：（プレハブ・みなしの）仮設住宅に入居されていた方で、住宅再建が終わった方という点からお話させていただくと、全部で35世帯が住宅再建を終えている。そのうち町外に出られた世帯が6世帯。それ以外（在宅被災者等を含めて）の方については、直接、災害が理由で転出されたのかどうかは、今後詳細な分析が必要と思っている。

佐久間委員：今のは仮設住宅入居者の状況しか説明が無かったが、それ以外の在宅被災者は把握していないのか。

引地室長：昨年11月から今年9月までの人口の社会増減の数値で申し上げますと198名のマイナスとなっている。転出人数は416名であるが、416名全ての方が災害をきっかけとして転出されたかどうかはわからない。その一方で218名が転入しているので、社会増減はマイナス198名となる。

佐久間委員：ありがとうございます。

※次ページに続く

佐藤（隆）委員：基本的に仮設住宅への入居期間は2年だが、入居期間について不安に思っている人もいるようなので、町としての考え方をお聞きしたい。

日下被災者支援室長：今の仮設住宅、みなし仮設を含めて国の事業で実施しているが、災害公営住宅の整備時期を踏まえると、仮設住宅の入居期限を過ぎてしまうので、これらの方々を含めて、やむを得ない事情で期限を超過する方々に配慮し、国・県に対して様々な働きかけをしている。

佐藤（隆）委員：基本的には来年3度の3月で仮設住宅に住んでいる方は、仮設住宅を出なければならないという認識でよいか。

日下被災者支援室長：来年度の3月というのは、あくまでも今の災害公営住宅の整備スケジュールである。原則、仮設住宅は居住からで2年間となっている。そのため、災害公営住宅等への入居を希望される方に対しては、災害公営住宅等が完成するまでは、期限を延長するよう働きかけるということである。また、それ以外の自宅を再建する方で、やむを得ない事情があって、2年間を過ぎる場合についても、期限の延長を国に掛け合っていきたいと考えている。

（3）その他《説明：復興推進室長》

- ・復興ポスターについて
- ・復旧・復興計画の子ども版冊子について
- ・次回の復興推進委員会について

佐藤（勝）委員長：質問とコメントになるが、このポスターはとても良いポスターだと思う。町内に掲示するとのことだが、今後も丸森を忘れていただきたくないし、支援もお願いしていきたいので、町外にも掲示していただければ有難い。

また、委員会に関しては年に1回ということだが、進捗状況については、半年に1回出るということなので、委員の皆さんがしっかり意見を言えるようにして欲しい。委員会の場だけでなく、委員の皆さんが復旧状況の資料を見て、それについての意見を返送するような形をやっていただけると良いと思う。

大内復興対策監：ポスターについては、御意見にありましたが、町外の市町村や県外から応援に来ていただいております。それらの自治体を含めた関係機関への周知、情報発信はしていきたい。

2つ目のご意見については、御提案いただいたように、進捗状況などの資料をお送りして、メールや電話などで御意見を頂き、それをまたフィードバックしていくということも検討していきたい。

今野委員：小斎中原地区の小河川の工事着工と完了予定は、いつなのか教えていただきたい。

八巻建設課長：工事については、現在測量設計中で、明確な時期は言えないが来年度の着工になる予定である。

今野委員：地区にいる私と同世代の方と話をしたとき、また水害があったらこの場所にはもう居ないという意見が多かった。私には娘がいるが、就職したら親としてはこの丸森町に住んでそこから職場に通って欲しいと考えていたが、この水害で考え方が変わってきた。この場所に居て、また悲しい辛い思いをするのであれば、他の場所で暮らして欲しいと思うようになった。

※次ページに続く

水害が再び起こらないことを願うが、早く川を直していただければまた気持ちも変わってくるかもしれない。工事もちろこちらにあり大変だと思うが、なるべく早く工事を進めていただければと思う。

八巻建設課長：再度、進捗状況を確認して早急に対応するよう検討する。

保科町長：今の話に関連することだが、町の災害復旧事業の進捗状況を見ると遅れていると思う。言い訳になるかもしれないが、災害後、国の査定を受けたのが2月初めである。モデル査定によるもので、被災状況が同じような工事箇所については調査せずにモデル的に選定した箇所のみを調査して、それを他に当てはめるという手法により、国の査定を受けたという経過があった。そのため、工事発注に際しては、全箇所の調査が必要であり、調査をしていないところを改めて調査するために全国から作業員の方々に来ていただいている状況である。こういった中で、コロナで県間の移動が制限されたのも遅れた一因である。それと町職員の人材不足もある。技術職の職員が限られているので、県内だけでなく県外からも来ていただいている。それでも人材が不足しており、明日から副町長が関東の自治体に行って職員の派遣をお願いしてくる予定である。何とか皆様の要望に応えるため頑張っているが、そういった事情があることもしっかりと伝えていかないといけないと思う。また、今後は、工事を発注した時に落札してもらえるのかという心配も出てくる。目の前の災害箇所が直らないことは町民にとって大変不安なことだと思うので、皆様が安心できるように町としても一生懸命頑張っていきたい。ぜひご理解いただきたい。

佐藤（勝）委員長：ポスターの「建物はなくなっても、俺たちがいる」。これはとても素晴らしいことだが、「ここからどこかに行かないで欲しい」ということがこれから一番大事なことだと思う。人が流出するとどんどん過疎化になっていく。ポスターとしてはなかなか良いが、この後に何か一言入れておきたいと私は感じた。それから、このような災害の原因は何かということをいろいろ考えたが、これは丸森の川の特徴、川がたくさんある。今後も積極的に阿武隈川の排水というものを考えていただきたい。皆さんからたくさんの御意見ありがとうございました。

※ 以上

令和2年度第1回丸森町復興推進委員会 委員出欠確認表

(敬称略)

委員区分	氏名	地区名・役職等	備考	出欠
町民	さとう かつえい 佐藤 勝栄	丸森地区		出
	さくま しんぺい 佐久間 新平	丸森地区		出
	さとう りゅういち 佐藤 隆一	金山地区		出
	さくま とおる 佐久間 徹	筆甫地区		出
	わたなべ まさみ 渡邊 政美	大内地区		出
	はやかわ まり 早川 真理	大内地区		欠
	こんの みか 今野 美香	小斎地区		出
	よしの まさかず 吉野 将一	舘矢間地区		出
	さとう たえ 佐藤 多恵	大張地区		欠
	おおつき やすひろ 大槻 康浩	耕野地区		出
学識経験を有する者	しばやま あきひろ 柴山 明寛	東北大学 災害科学国際研究所 准教授		出
公共的団体等の 役員又は職員	かわむら けんじ 川村 賢司	丸森町住民自治組織連絡協議会		出
	やつ としゆき 谷津 俊幸	社会福祉法人丸森町社会福祉協議会 常務理事事務局長		欠
	しろき ひろかず 白木 寛一	丸森町商工会 会長		出
	あべ よしとも 阿部 喜知	みやぎ仙南農業協同組合 丸森地区事業本部 地区事業本部長		出
	さくま じゅんいち 作間 淳一	丸森町森林組合 代表理事組合長		出
	むかい ゆうじ 向井 裕壽	丸森町消防団 団長		出
	いとう じゅん 伊藤 淳	一般社団法人宮城インバウンドDMO 常務理事		出
	さいとう まなぶ 齋藤 学	丸森町PTA連合会 会長		出
	ほし きょうこ 星 京子	丸森町連合婦人会 副会長		出